

北海道グローバル人材育成キャンプ

道南・ネイパル森会場
平成30年8月17日
(主管教育局 渡島教育局)

平成30年7月25日(水)～27日(金)の3日間、ネイパル森を会場として、異なる言語や文化、生活に対する理解と関心を深め、国際社会において主体的に行動できる資質・能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、道南キャンプを開催しました。

本キャンプでは、渡島・檜山・胆振・後志・石狩などの全道各地から25名の高校生が参加し、講師によるワークショップやコミュニケーション活動に積極的に取り組みましたので、その様子を紹介します。

1日目

○ コミュニケーション活動1・2

参加した高校生は、キャンプで活動を共にするメンバーとの交流を深め、自分たちのニックネームやキャンプでの目標を記したチームフラッグを作成し、発表を行いました。



【チームフラッグの発表】



【一番高いタワー】

その後、新聞紙3枚と少量のセロハンテープのみで「一番高いタワー」を作るという課題にチャレンジし、英語で議論しながら取り組みました。各チーム苦勞していましたが最後まで協力してやりとげました。

○ ワークショップ1 (講師：ALT)

全参加者が「自分の町のグローバル化」についてのスピーチを行いました。スピーチでは、全道各地の様々な状況が語られ、話を聞く方は、変化しつつある各地の様子について理解を深めていました。



【参加者スピーチ】



【ALTからグローバル化の説明】

キャンプに協力いただいたアメリカ、カナダなどのALTからグローバル化社会について説明があり、参加者の多くが日本との意識の違いについて驚いたような様子でした。

2日目

○ ワークショップ2 (講師：東海大札幌 ボブ・アシュクロフト氏)

ICTを活用しイギリスの政治や文化を題材に日本との違いを意識させながら、英語での適切なコミュニケーションを学ぶワークショップがありました。



【ICTを活用した学習】



【課題解決活動】

野外に移動してからは、室内で確認したコミュニケーションの方法を意識しながら複数の課題解決活動に取り組みました。まとめとして、講師から、相手の立場に配慮した表現を意識して使うことが大切であるとの話がありました。

○ ワークショップ3 (講師：北海学園大学 中川 竣貴 氏)

現在大学生である講師から、数ヶ月間の留学経験、留学に至った経緯や増えつつあるイスラム文化圏からの観光客の対応、これからの夢などの話がありました。高校生である参加者にとっては大変身近なモデルケースとして感じられたようで、留学についての意識が高まりました。



【講師から留学体験等の説明】

○ ワークショップ4 (講師：JICA 野々垣 真実 氏)

「バーンガ」というゲームを通して、異文化を体験する活動を行いました。

終了後、参加者はグループ内でゲーム中に感じた気持ちについて意見を出し合い交流しました。

講師からは「海外では、自分の経験と違う体験や違和感を感じることも多いが、まずはそれを受け入れて合わせていくことで、相手を理解することができる」とお話しがありました。



【バーンガ】



【ゲーム後の意見交流】

○ コミュニケーション活動3・4

「グローバル社会で私たちができること」をテーマに、3日目のグループプレゼンテーションに向け準備を行いました。最初の協議で提案内容を決め、その後、プレゼン用のポスター作成に取り組みました。



【プレゼンテーションの準備】



3日目

○ コミュニケーション活動5・6 (助言：北海道国際交流センター 池田 誠 氏)

グループごとにプレゼンテーションを行いました。日本をもっと知ってもらうためにSNSを活用する提案や、交流を通してステレオタイプのような固定された物の考え方を変えようという提案などがありました。



【プレゼンテーション】



【助言者から説明】

発表後、助言者から、留学や地域での国際交流等の紹介があり、生徒がキャンプ後に活動できる内容について示唆をいただきました。

○ キャンプを終えて (参加者の感想や意見)

- ・楽しく英語を学ぶことができました。自信がつき留学への意識が高まりました。
- ・グローバル化というテーマから色々な考えを聞くことができ勉強になりました。
- ・自分の伝えたいことを英語でどのように表現し伝えられるかを常に考え行動することで、相手を思いやり尊重する力が高められたと思います。



【参加者全員で】